

第 48 回国臨協関信支部学会開催にあたり



国臨協関信支部学術委員会

委員長 林 元久

(NHO 宇都宮病院)

全世界に蔓延している新型コロナウイルス感染症が、日本においても感染爆発により緊急事態宣言が発出されました。その後解除になり、経済活動が再開されて街も活気を取り戻し、これならば予定通りの開催なのかなと思っていました。しかし再び感染者数が増加して、会場確保のほか都県を跨いだ移動や公共交通機関の利用等、会員の感染リスクを考えると開催中止は免れないと感じました。「オンライン」という形で、第 48 回国臨協関信支部学会が開催されることになり、参加したくても会場が遠方のため諦めていた会員や開催日に都合がつかない会員も参加が可能な「日時と会場を定めない」関信支部学会になるのではないかと思います。

さて、新しい生活様式の中で開催される第 48 回国臨協関信支部学会ではありますが、例年通り、学術奨励賞、学会特別賞、新人賞を授与する方向で進めています。まず 1 次選考は、学術委員会部門員が応募にあった 14 演題すべての抄録について査読し評価します。次に 2 次選考ですが、学術委員会副委員長で病理検査部門長でもある山本伸晃主任技師 (NHO 東京医療センター)、検体検査部門長の白井洋平主任技師 (NHO 高崎総合医療センター)、微生物検査部門長の小川佳亮主任技師 (国立成育医療研究センター)、関信支部学術担当の吉田副支部長と私の 5 名による学会賞選考委員で、学会賞選考基準に基づいて評価をします。選考基準は演題発表スライド (ナレーション挿入) の評価と、会員からの質疑に対する演者の回答内容について評価をして最終決定をいたします。

今回の学会企画は、1. 「標準採血法 (GP4-43) の改訂ポイントと指先からの正しい採血方法 (POCT 機器使用時)」 (関信支部担当)、2. 「新人に向けた緊急検査対応」と題して、検体検査部門の「パニック値の判断」、輸血検査部門の「血液型検査のピットホール」、生理検査部門の「心電図検査のパニック値の判断」、微生物検査部門が「グラム染色、抗酸菌染色について」を各々担当し抄録集に収め、会員皆様にお役に立てられればと思っています。

新しい生活様式の中で生まれた新しい国臨協関信支部学会です。多くの会員の皆様に参加してもらい、たくさんのご意見をいただき今後の国臨協関信支部学会の更なる発展へと繋がることを祈念します。